

恩送りの法則

金は借りたら返さなければならぬ。物を借りてそのままにしたら「借りパク」だ。とにかく借りたものは返す。これ、常識。

しかし聖書によると一つだけ借りっぱなしでいいものがある。「愛」だ。これは借りっぱなし、もしくは貸しっぱなしで大丈夫。返済期限はない。

なぜだろう。それは聖書が返済義務のあるものを「愛」とは呼ばないからだ。借りたものを返す、それは取り引き、もしくはレンタルにすぎないのである。もちろんそれをなにも聖書は悪いことだと言っているのではない。ただそれを少なくとも聖書は「愛」とは呼ばないのである。イエスはパーティを開く際の不思議なアドバ

イスを提示する。

「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んでお返しをしない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。」

(ルカによる福音書二四章二二―二四節)

あえてお返しできない人を招き、もてなしなさいと勧めるイエス。それは彼の人生そのもの。愛は与えっぱなし、貸しっぱなし。見返り、返済、一切無用の行為なのだ。

渡していけばいいのだ。もらった恩を相手ではなく、第三者に渡す。バトンを次々と渡すように。これを「恩送り」という。英語で「Pay it forward」。

一般に言われる恩返し「Pay back」は大切なことであり、世間では常識であろう。しかしこれってキャッチボールに似ていないだろうか。二人の間で一個のボールが行ったり来たり。その間に誰も入れず、延々とボールの交換が行われるのに似ている。「親に苦勞をかけている。その為に親に恩返しをすることが私の目標です」。確かにそうだろう。しかし、そのためだけにあなたの人生があるのだろうか。

先日、テレビである光景を見た。ご飯を食べる時、二人のきょうだいらしい小学生が「いただきます」を唱えるシーン。両親を目の前にしてきょうだいはこう言うのだ。「お父さん、お母さん、今日もご飯をありがとうございませう。いただきます」。驚いた。この家庭では代々このような習慣なのか。確かに食事の際に感謝の言葉を述べることはまっとうなことだ。しかし昔は「お百姓さんありがとう」「お天道様ありがとう」だった。食べ物がたくさんの人繋がり目目の前であることを覚え、見えない世界、遠い世界との繋がりを感じながら、感謝の輪を広げる形で「いただきます」と言っていた。「お

父さん、お母さん、ありがとう」……いつの間、目の前の人にしか感謝できない、ボールをくれた人にしかボールを返せない私たちになったのか。知っている人とだけキャッチボールを延々と繰り返し、他者を寄せ付けないカプセルに閉じこもるほうが安心なのか。



筆者宮古島にて

それに対し、Pay it forward は広場でやるバレーボールに似ている。ネットもコートもない。輪になつてボールを互いにトスしあう素朴な遊びである。古い昭和の映画によく登場する、職場の昼休みに若者たちがビルの屋上

小学校、中学や高校、塾やフリースクール、そして大学で世話になった先生、先輩、助けてくれた友達がいただろうか。もしいたならば、その受けた親切を、どうやってその先生や先輩や友達にお返しできただろうか？ おそらく多くの人が返さぬまま時間が過ぎてしまったのではないか？ 返したくても返せない恩が、宙ぶらりんのまま浮いているようだ。「このままでは恩知らずになるよナア……」と思いつつ、戸惑っていないだろうか。

でも、ご安心を。その恩は、親切は今から返せます！ 別の人に返すのだ。知らない人に、後輩に、そしてあなたから恩を受けたその人も、またあなたにではなく、別の人に恩をつないで

でやるアレである。例えば、あなたが「○○ちゃん」と言つて、その人にトスする。その○○ちゃんも受けたボールを、あなたに返すとは限らない。また別の人にトス。ボールが飛ぶ方向は予測不能。それだけでは無い。その輪の中には自由にとんどん他人が入ってくる。「私も入れて！」といえれば一つで誰でも参加可能。ボールが飛び交う輪はどんどん広がっていく……。恩返しが二人の間のキャッチボールの繰り返しなら、恩送り、Pay it forward はどんどん参加者が広がるバレーの輪。

受けた恩を別の人にトスしませんか。どうせならこの恩送りの輪に、必要な人はどんどん入ってもらいましようよ。輪が、世界が広がります。愛のボールを、自分の身内だけ、同じグループだけ、知っている仲間だけに渡さないよう注意しましょう。ボールを仲間の外に、関東の人は九州の人に、九州の人は、東北にトスしましょう。アジアに、世界にトスです。子どもに若者に中高年に老人に、健康な人に病んでいる人に、マジョリティにマイノリティに、味方に敵に……。ボールをもらった人は、嬉しかったら、その嬉しさを次の人につなげてください。確実に世界に喜びが広がり、あなたの渡した愛のボールを、神さまが豊かにお用いくださるはずです。